



2017年（平成29年）1月31日

南万騎が原駅周辺リノベーションプロジェクトが 「よこはま多世代・地域交流型住宅認定制度」の第1号に認定

相鉄不動産株式会社

相鉄グループの相鉄不動産(株)（本社：横浜市西区、社長・杉原正義）では、南万騎が原駅周辺リノベーションプロジェクト※（以下、本プロジェクト）を、横浜市が進める「よこはま多世代・地域交流型住宅認定制度」（以下、本制度）に申請し、2017年（平成29年）1月26日（木）に計画認定されました。

本制度は、民有地を活用し民間事業者が整備・運営する住宅のうち一定の基準を満たしたものについて横浜市が認定するものです。介護が必要な高齢者や子育て世代など多世代が安心して地域で住み続けられるよう入居者の特性に配慮した住まいの整備、介護・医療施設、日常生活を支える商業施設やサービスなど住みやすい環境が整っていること、世代間や地域との交流に配慮した機能・設備が備わっていることなどが求められます。本制度は2016年（平成28年）8月に創設されたもので、本制度の認定第1号となります。

相鉄グループでは、横浜市と協働して、相鉄いずみ野線 南万騎が原駅周辺地域の駅前商業施設の再整備に併せて、子育て世代から高齢者まで幅広い世代が安心して居住できる次世代型の郊外住宅地のモデルとなるまちづくりに取り組んでいます。今後も「選ばれる相鉄グループ」、「選ばれる沿線」を目指し、相鉄線沿線の一層の発展のために貢献してまいります。

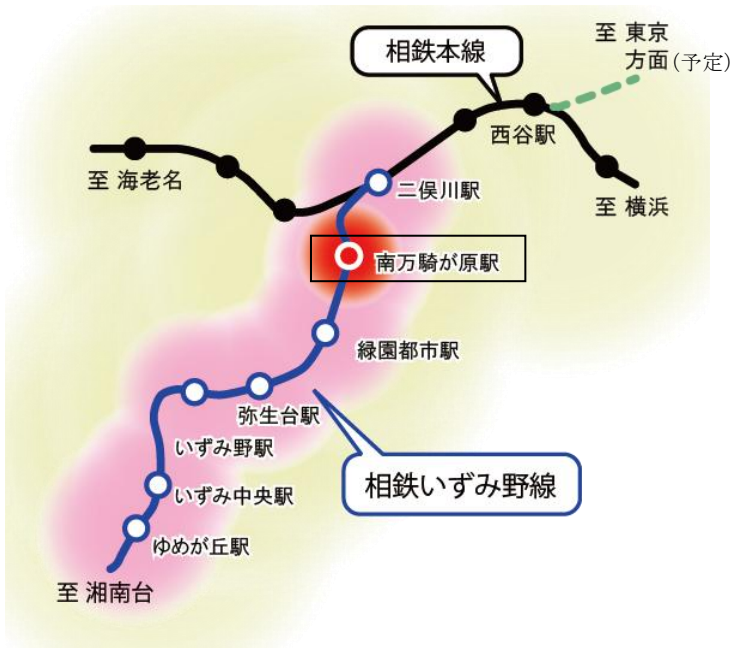
概要は別紙のとおりです。



計画認定を受けた「南万騎が原駅周辺リノベーションプロジェクト」

よこはま多世代・地域交流型住宅認定制度の概要

- 認定制度名 よこはま多世代・地域交流型住宅認定制度
- 目的 高齢者や子育て世代など多世代が地域の中で安心して住み続けられるよう世代間や地域との「つながり」を作り出す住宅の整備を促進させることを目的とする。



相鉄いずみ野線 南万騎が原駅



事業ロゴマーク (優良事業A)

- 認定対象 南万騎が原駅周辺リノベーションプロジェクト区域



南万騎が原駅周辺リノベーションプロジェクトの整備概要

- | | |
|--------------|---|
| 1. 子育て支援施設 | 認可保育園、学童保育（4月オープン予定）、
病児医療保育、小児科（オープン済み） |
| 2. 高齢者支援施設 | デイサービス、訪問介護事業所（夏頃オープン予定） |
| 3. 地域交流施設 | みなまきみんなのひろば（駅前広場）、みなまきラボ |
| 4. 医療・健康増進施設 | 眼科、調剤薬局（オープン済み） |
| 5. 生活利便施設 | スーパー、ベーカリーカフェ、ドラッグストアなど（オープン済み） |
| 6. 住宅施設 | 賃貸マンション（KNOCKSみなまきみらい）、サービス付き高齢者
向け住宅（グランドマストみなまきみらい）、分譲マンション（計画中） |



2016年度グッドデザイン賞を受賞した
みなまき みんなのひろば（左）とみなまきラボ（右）

「KNOCKSみなまきみらい」の概要

- | | |
|-----------|---|
| 1. 所在地 | 横浜市旭区柏町127の一部（相鉄いずみ野線 南万騎が原駅 徒歩1分） |
| 2. 構造・規模 | 鉄筋コンクリート造 地上6階建て |
| 3. 総戸数 | 65戸 |
| 4. 入居開始予定 | 2017年（平成29年）3月上旬 |
| 5. その他 | 1階に横浜市認可保育園（認可予定）及び学童保育施設が、敷地内別棟1階に商業テナントとして矯正歯科医院と生花店が入居予定です。
2017年（平成29年）1月より建物内にモデルルームをオープンし、入居者の募集を開始しました。 |

※南万騎が原駅周辺リノベーションプロジェクトとは

駅前の商業施設の再整備に併せて子育て世代から高齢者まで幅広い世代が安心して居住できる次世代型の郊外住宅地のモデル事業。多様な居住形態に対応することで、周辺地域からの住み替え循環を進め、居住者の高齢化が進んでいる同地域の駅前街区と周辺住宅地一体の再活性化を図る取り組み。

SOTETSUあしたをつくるPROJECTとは

相鉄グループ創立100周年とその先の都心直通運転に向けて、沿線内外の方にもっと相鉄グループのことを知っていただき、もっと親しみを感じていただくためにグループ各社や沿線事業者、沿線住民を巻き込んで、「住みやすい沿線になるための活動」と「JR・東急線相互直通運転のメリット」を発信していく取り組み。

南万騎が原駅周辺におけるその他の取組み

相鉄グループの相鉄不動産(株)、(株)相鉄ビルマネジメント（本社・横浜市西区、社長・千原広司）と、(株)ANDECO、(有)乾木工、木工七木、(株)藤田木材では、南万騎が原駅前の再整備に伴い伐採された既存樹を活用した「みなまきのみんなの木プロジェクト」が「第2回ウッドデザイン賞」を受賞しました。

ウッドデザイン賞は、ウッドデザイン賞運営事務局（後援：林野庁）が木のよさや価値を再発見させる製品や取組みについて、特に優れたものを消費者目線で評価し、表彰する新しい顕彰制度です。

“木のある豊かな暮らし”が普及・発展し、日々の生活や社会が彩られ、木材利用が進むことを目的としています。木を使って暮らしの質を高めているものが対象の「ライフスタイル部門」、木を使って人の心を豊かにし、身体を健やかにしているものが対象の「ハートフルデザイン部門」、木を使って地域や社会を活性化しているものが対象の「ソーシャルデザイン部門」の3つの表彰部門を設けており、今回は「ソーシャルデザイン部門」で受賞することが出来ました。



「みなまきのみんなの木プロジェクト」の概要

南万騎が原駅周辺リノベーションプロジェクトを行うにあたり、40年前の開業時から街とともに育ってきたクスノキやケヤキ、イチョウなどの街路樹を伐採する必要がありました。地域や街路樹、駅に対して今まで以上に愛着を持ってもらうことを目指し、これらの街路樹を活用して駅前商業施設（相鉄ライブ）に新たに設けたエリアマネジメント拠点「みなまきラボ」で利用する家具や積み木を製作。さらに、この木を使用して木の時計や電車等を製作したワークショップを地元の子供たちと開催しました。周辺にお住まいの方からは大変好評をいただき、街路樹を通じた新しいコミュニケーションの手段を得ることができました。



街路樹を活用し製作したテーブル・イス



子供たちとのワークショップの様子